「江戸図屏風」を観てみよう―屏風を語る、自分を語る―

東京都立一橋高等学校　海上　尚美

１．実施学年及び教科･領域

高等学校２年次～４年次　学校設定科目「博物館学入門」（自由選択）

＜博物館学入門とは＞

本校開校時に、地域と連携して教育活動をおこなうことをめざして地理歴史科に設置された学校設定科目である。近隣の江戸東京博物館と連携し、出前授業や館内見学などで協力をえている。

本校の生徒は不登校を経験するなど、周囲の人とうまく関係をつくれない、年齢相応の生活体験に乏しい生徒が多い。学校内では少数の気の合う友人たちとのみ過ごし、グループ外の生徒とはほとんど交流を持たない。おとなしく授業を受け、指示された作業にはまじめに取り組むが、じっくり考えることや自分で調べて答えを出すことをめんどうくさがり、全体的に受け身の姿勢が目立つ。ひとりひとりの性格は人なつこい面もあり、素直である。かれらの良い面をいかしつつ、さらに持てる力を引き出していきたい。

そのため、この授業では「ひと・モノ・自分に出会う」ことをコンセプトとし、博物館見学や博物館で働く人との関わりを通じて､以下のような力を育てることをめざしている。

【授業を通じて身につけさせたい力】

- 博物館資料に接して、自分なりの疑問や考えを持ち、それをさまざまな方法で表現する。
- 自分の意見、考えたことを周囲に発表する。
- 他者の意見、考えを傾聴する。
- 自分も他者も大切にしながら、共同作業をおこなう。
- 見学などの社会体験を通じて、マナーを身につける。
- 社会で働く人にふれ、高校卒業後の自分の進路について具体的なイメージを描けるようになる。

２．学習のねらいと博物館活用との関連について

（１）主題名

「江戸図屏風」を観てみよう―屏風を語る、自分を語る―

（２）ねらい

①現代では目にしたり使ったりすることのほとんどない屏風を題材にして、日本の歴史や文化について考える。

②ミニ屏風制作を通じて、その表現方法を体験的に理解する。

③作品について発表･講評をおこなう言語活動を通じ､自分の考えたことを説明する力、他者の意見を傾聴する力を養う。

（３）博物館との関連

①歴博貸し出し教材の江戸図屏風床置きパネルを用いて、描かれているものを細かく観察する。

②同じく貸し出し教材の江戸図屏風ミニチュア版を用いて、屏風の形状を知る。

３．指導計画　（８時間扱い）＊本校は定時制課程のため 45 分 1 コマで授業

過程	時間	○学習活動　●学習内容	指導上の留意点
展開①	90 分	＜絵を見る＞	
	45 分	○江戸東京博物館小澤弘教授の講義。 ●屏風とはどのようなものかを理解する。 ●江戸図屏風とはどのようなものかを理解する。	・生徒の理解度を適宜確認し、補足やフィードバックをおこなう。
	45 分	○江戸図屏風を観る。 ●江戸図屏風に描かれているものを観察する。	・江戸図屏風の見どころを適宜生徒に示す。 ・生徒の疑問や感想をフィードバックする。
展開②	90 分	＜形をみる＞	
	30 分	○ミニチュア江戸図屏風を観る。 ●前回の講義内容を復習する。	・屏風の各部分を実際に見たり触れたりしながら、講義の内容をふりかえらせる。
	60 分	○ミニ屏風作成の構想を練る。 ●下絵を描く。	・テーマが決まらない生徒とは、対話の中で題材を引き出す。
展開③	90 分	＜つくる＞	
	90 分	○ミニ屏風を制作する。 ●それぞれのテーマに基づいて屏風をつくる。	・屏風の約束事を踏まえて制作しているかを確認する。 ・立体になった時にどのように見えるかを意識させる。 ・それぞれが自分らしい作品を作れるよう、適宜助言する。
展開④	90 分	＜語ってふりかえる＞	
	15 分	○発表内容を整理する。 ●ワークシートに発表の概要を書き込む。	・話すときのことをイメージしながら記入させる。

	40分	○発表する。 ●発表者は5分程度で屏風の紹介。 ●聴く人は感想を付箋紙に整理する。	・適宜質問をしたり聴く生徒の反応を全体に返したりしながら、全員が発表者の屏風に関心を持って鑑賞できるようにする。
	35分	○ワーク全体をふりかえる。 ●付箋紙に書いたコメントを共有する。 ●ワーク全体を通じて学んだことを文章でまとめる。	・補足の意見や感想などをひきだし、コメントの羅列に終わらないようにする。

４．実践の概要

（１）展開①　授業場所：本校和室

連携先の江戸東京博物館都市歴史研究室の小澤弘教授をゲストティーチャーとして招き、「屏風絵－可動する藝術」というテーマで講義を受けた。

小澤教授より屏風についての講義

生徒たちは屏風を実際に見たり使ったりしたことがほとんどないため、まずは屏風の歴史やどのように仕立てられているかなど、さまざまな屏風絵の画像を見ながら話を聞いた。それを踏まえて、江戸図屏風とはどのようなもので、何が描かれているかについて説明を受けた。

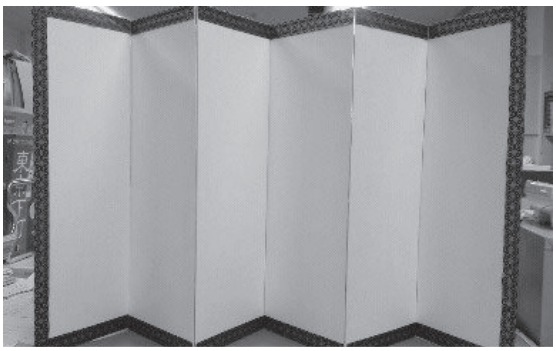
次に、歴博貸し出し教材の江戸図屏風床置きパネルを用いて、実際に何が描かれているかについて詳しく観察をおこなった。スペースの都合上、江戸城周辺に焦点を当てた。地名を読み取るのに苦労していたが、学校のある浅草橋のほか、日本橋・浅草・隅田川・神田川など生徒にとってもなじみの深い場所を発見し、その場所についての小澤教授の解説を聞いて、生徒たちは大いに関心を抱いたようだった。

全員で江戸図屏風を観察する

また、江戸城周辺には朝鮮通信使の行列や興味深いものが多々描かれており、それを見た生徒の疑問や発言を小澤教授に即座に拾って答えていただいた。そのほか、画面に描かれた徳川家光の姿を探す作業は全員が夢中になって画面に見入り、初めて出会う江戸図屏風の世界を楽しむことができた。

（２）**展開②**　授業場所：本校普通教室

本時では歴博貸し出し教材ミニチュア版江戸図屏風を用いて、前回の復習をおこなった。屏風の形状や各部分の名称、平面とは違った絵の見え方は、やはり実際のものに触れることで腑に落ちるのではないかと考えた。



屏風パネル試作品

ミニチュア版とはいえ、本物の屏風を見るのが初めてという生徒もおり、屏風とはどのようなものかを体験的に理解するのに非常に役に立った。

そうした基礎知識を踏まえて、実際にミニ屏風制作に取り組むことにした。

屏風パネルの試作品を生徒に提示し、制作にあたっての約束事を説明した。

【屏風制作の約束事】
・自分について語るものであること。
　住んでいる場所、今までの人生を振り返って、学校のこと、好きなものなど
・金雲を用いること。

それから A３サイズの白紙を３枚配布し、たて半分に折って縁取り部分を線引きさせ、そこに屏風の図案を下書きさせた。

（３）**展開③**　授業場所：本校普通教室

【ミニ屏風の制作手順】
材料：A3 サイズのイラストボード３枚（パネル用）・和紙・色画用紙（縁取り用）
1.イラストボードに筋を入れ、折り目をつける。
2.和紙で 2cm 幅の縁取りをする。
3.色画用紙で 5mm 幅の縁取りをする。
4.写真を貼る・絵を描くなどしてパネルの装飾をおこなう。←生徒がおこなった部分
5.縁取りと同じ色画用紙で背面からパネルをつなぐ。

屏風制作に使える時間はこの時しかなかったため、手順１～３までは担当教員が事前におこない、３枚のパネルを当日生徒に配布して、下絵をもとに作業をおこなわせた。

屏風制作の様子

写真を貼る､絵を描く､色紙などでの装飾のほか、金雲の表現にも生徒の個性があらわれていた。それぞれよく構想を練り熱心に制作に取り組んでいたが、どうしても時間に限りがあり授業内で完成させることはできず、持ち帰り作業となった。欠席者には連絡をしてパネルを取りに来させ、やはり自宅などでの作業を指示した。

作成した屏風パネルは発表日当日の午前中を提出期限とし、授業の前に担当教員がつなぎ合わせて屏風の形に仕上げることになった。

（４）展開④　授業場所：本校和室

発表は和室で、ミニチュア版江戸図屏風をしつらえて、座卓を囲んでおこなった。人前で発表する力をつけることはこの科目の大きな到達目標であり、そのためには慣れ親しんだ担当教員や講座のメンバー以外の人の存在や視点が大いに有用であると考え、ゲストティーチャーとして東京都立大江戸高等学校の森田真理子先生をお招きし、美術的な観点からの講評をいただくことにした。

前時は制作作業のみで終始してしまったので、まずワークシートにタイトル・屏風のストーリー・こだわりポイントなど発表概要を整理させた。

【発表の方法】
・発表者は５分程度で自分の屏風の紹介をおこなう。
・聴く人はよかったところを桃色の付箋紙に、こうすればもっとよくなると思ったところを黄色の付箋紙に書き出す。
・１枚の付箋紙に１件のコメントを書く。

発表はひとり５分程度を目安に、ワークシートに沿っておこなった。ところどころ質疑応答などを交えながら、それぞれが作成した屏風についてのストーリーを語ってくれた。「川がリアル」「写真が可愛い」など画面を見ての感想が口にされる中、写真や絵に秘められた思い出のほか、制作時に傍目から見て想像していたのとは違った意味や意図が開陳され、全員が興味深く鑑賞した。

屏風発表の様子

全員の発表が終わったところで、コメントをまとめる時間を少しとってから、それらの共有をおこなった。発表者に対して、聴いていた人たちが順々に感想を述べ、コメントを書いた付箋紙を発表者に渡した。

次いで森田先生より、それぞれの屏風について美術作品としてのいいところやさらによい作品にするためのポイントを丁寧に解説いただいた。

森田先生からの講評

【生徒の作品と感想・コメント（一部）】

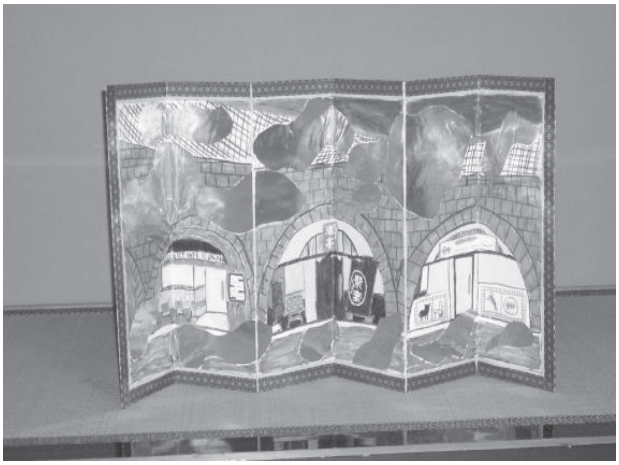
「M.I（生徒名）～生誕 20 周年記念～図屏風」

描いたもの：小学校で飼っていたウサギ・中学校のときのたまり場・高校でのアルバイト先

感想：最初は何で屏風!?って思ったけど、見たらきれいで、作ってみたら楽しかった！人生を振り返れたし、自分にとって大切なものがわかった。

江戸図屏風は大きくてきらきらしてて、徳川さんがいて屏風ってこんなだったんだ!!って思った。びっくり。

コメント：「ウサギのピーターが可愛かった」「木の葉が２色できれい」「大切なものが大きくつくられていてわかりやすい」

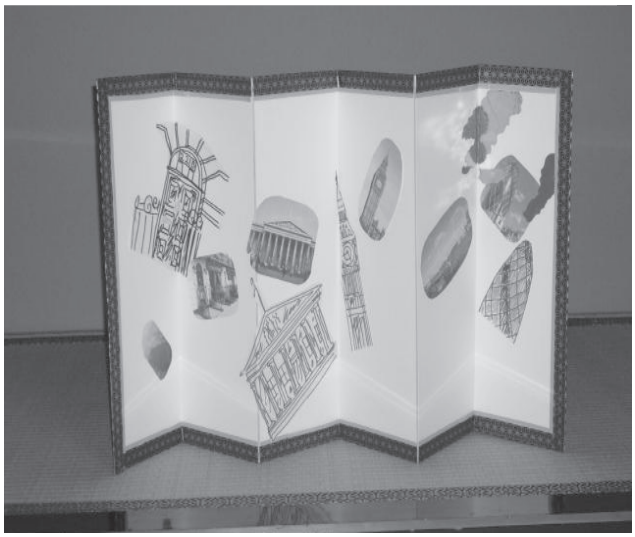


「お茶の水図屏風」

描いたもの：高校の４年間働いていた御茶ノ水の居酒屋

感想：一番最初に屏風の授業をやるって聞いたときはどうなることかと思ったけど、案外始まったら楽しかった。屏風って存在は知ってても、どういうもので、どういう作りとか、絵が描いてあるって全然知らなかったから、江戸図屏風を観てすごく衝撃をうけた。

コメント：「絵がダイナミック」「神田川の汚さがよく出ている」「全体に絵が入っていて完成度が高い」



「倫敦図屏風」

「私の三年図屏風」

描いたもの：シャーロック=ホームズが最近好きになったのでロンドンにしました。
感想：授業で見た江戸図屏風のように作りたかったのですが、白い部分が多くなってしまいました。
　シャーロック=ホームズについて語れたのでよかったです。
コメント：「写真の説明が詳しくて勉強になった」「イギリスの地図や英字新聞を貼るなどイギリスらしさがもっと出ると可愛いと思う」

描いたもの：高校に入ってからのことを順番に描いたり貼ったりしました。
感想：意外にスペースを埋めるのがたいへんでした。金雲をもうちょっと貼ればよかったのかなと思いました。もし機会があれば改善点を含めて作ってみたいです。
　皆さんのコメントがすごく嬉しかったです。
コメント：「絵が上手だし配置がステキだった」「説明がわかりやすかった」「和紙をきれいに配置していて雰囲気がよい」

【授業で使用したワークシートの一部】（※サイズはＡ４）

博物館学入門　No.15　　学年・クラス／　　氏名／

◆◇◆　屏風を語る,自分を語る　◆◇◆

今日のミッション!!
①発表する内容を整理する。
②発表する／他のひとの発表を聴いて,感想をふせんに書き出す。
③感想を共有し,みんなでふりかえる。
④ワーク全体を通じて,考えたことや感じたことをまとめる。

①

屏風のタイトル（※　××図屏風としてみよう）
屏風のストーリー（何を,どんなふうに描いたの？）
こだわりポイント（工夫したところ,苦労したところ）

※ワークシートは A3 両面印刷　裏面を中に半分に折って配布

表面：右側に①上記発表概要
　　左側に④ワーク全体の感想

④	①

裏面：②コメントの付箋紙を貼るスペース

②	

５．成果と課題

（１）前年度の反省点

前年度も同じ科目で江戸図屏風の床置きパネルを利用した授業をおこなった。生徒を右隻チームと左隻チームに分け、それぞれが画面の中から気がついたことや疑問に思ったことについて江戸東京博物館や学校の図書室で調べてグループ発表をするという展開であった。

生徒はそれなりの関心を持って屏風に描かれている絵の観察に取り組んだが、教員が鑑賞のポイントをきちんと提示できなかったため、深く読み解くまでにいたらなかった。また、博物館の展示から挙げた疑問点についての答えを導き出すことは、本校の生徒には相当にハードルの高い学習活動となり、時間と労力をかけた割には生徒の理解が深まらずに終わってしまう結果となった。

そのため今年度は何よりも、屏風とは何かを理解させることと、江戸図屏風の見どころを理解させることに重点を置き、そのうえで生徒に自己表現をさせる授業をおこないたいと考えた。

（２）成果

・昨年度の反省点を踏まえて専門家にレクチャーをお願いしたことで、江戸図屏風という博物館資料についての理解を深めることができた。

・屏風制作を通じて“ここで語ろうとすること”が明確になり、この科目全体の眼目としている「自分について他者に語る」ことがおこないやすくなった。

・少人数授業の特性を生かし、一方的なスピーチではなく、座卓を囲んでのやり取りで発表を進めたことで、聴く側も気楽に質問を発したり、間近で屏風の画面を観て細部まで観察することができた。

・付箋紙にコメントを書くことで、発表のいいところを探そうという気持ちが高まった。フィードバックがすぐおこなえること、他人からの評価が形に残せることで、達成感や充実感をもたせることができた。

・美術科教員からのアドヴァイスは授業担当とはまた違った視点で、全体としてプレゼンテーションの成否や美術作品としての出来具合など、多角的な評価ができた。

（３）課題

卒業予定者の卒業判定考査課題という位置づけでおこなったので、考査期間の時期に発表を設定せざるを得なかった。そのため、十分な制作時間を授業時間内に確保することができなかった。

もう少し余裕を持った授業計画を組めれば、制作段階での個別指導が行き届き、金雲についてももう少し効果的な使い方ができたはずである。

また、パネルを作るところから生徒が自分でおこなっていれば、屏風の仕立てについてより一層理解が深まったであろうことが悔やまれる。

６．わたしの考える歴博活用案　（全８時間扱い）

（１）実施学年　高校生

（２）学習のねらい

①現代では目にしたり使ったりすることのほとんどない屏風を題材にして、日本の歴史や文化について考える。

②ミニ屏風制作を通じて、その表現方法を体験的に理解する。

③作品について発表・講評をおこなう言語活動を通じて、自分の考えたことを説明する力、他者の意見を傾聴する力を養う。

過程	時間	○学習活動　●学習内容	指導上の留意点
展開①	90分	＜屏風を知る＞	
	45分	○江戸図屏風ミニチュア版を観る。 ●屏風とはどのようなものかを理解する。 ●江戸図屏風とはどのようなものかを理解する。	・屏風とはどんなもので、どのように使われてきたかを理解させる。 ・江戸図屏風に実際にふれて、屏風の形状や各部分の名称を理解させる。
	45分	○江戸図屏風床置きパネルを観る。 ●江戸図屏風に描かれているものを観察する。	・江戸図屏風の見どころを適宜生徒に示す。 ・生徒の疑問や感想をひきだし、全員で共有する。
展開②	90分	＜つくるⅠ＞	
	45分	○ミニ屏風のパネルをつくる。 ●各自でパネルを制作し、屏風の形状を体感する。	・屏風の形づくりと縁取りまでをここでおこなう。
	45分	○ミニ屏風の構想を練る。 ●下絵を描く。	・テーマが決まらない生徒とは、対話の中で題材を引き出す。 ・立体になった時にどのように見えるかを意識させる。
展開③	90分	＜つくるⅡ＞	
	90分	○ミニ屏風を制作する。 ●それぞれのテーマに基づいて屏風をつくる。	・約束事（自分について語るものであること・金雲を用いること）を踏まえて制作しているかを確認する。 ・それぞれが自分らしい作品を作れるよう、適宜助言する。
展開④	90分	＜語ってふりかえる＞	
	15分	○発表内容を整理する。 ●ワークシートに発表の概要を書き込む。	・発表時間の枠内におさまるよう、屏風にこめたストーリーや自分が工夫したポイントなどを記入させる。

	40分	○発表する。 ●発表者は5分程度で屏風の紹介をする。 ●聴く人は感想を付箋紙に書き出す（よかった点=桃色／改善点＝黄色）。	・適宜質問をしたり聴く生徒の反応を全体に返したりしながら、全員が発表者の屏風に関心を持って鑑賞できるようにする。
	35分	○ワーク全体をふりかえる。 ●付箋紙に書いたコメントを読み上げ、発表者に渡して共有する。 ●ワーク全体を通じて学んだことを文章でまとめる。	・補足の意見や感想などを引き出し、コメントの羅列に終わらないようにする。

＜参考文献＞

小澤弘・丸山伸彦編　『図説　江戸図屏風をよむ』　河出書房新社　1993年

水藤真・加藤貴編　『江戸図屏風を読む』　東京堂出版　2000年

塚本學　『江戸図屏風の動物たち』（歴博ブックレット⑤）歴史民俗博物館振興会　1998年

黒田日出男　『江戸図屏風の謎を解く』　（角川選書）　角川学芸出版　2010年

水本邦彦　『徳川の国家デザイン』（全集日本の歴史10巻）　小学館　2008年

『東京人』（2010年9月号）　都市出版　2010年

小澤弘　『都市図の系譜と江戸』　吉川弘文館　2002年

黒田日出男　『王の身体・王の肖像』　平凡社　1993年

ＮＨＫ「美の壺」制作班編　『屏風』　日本放送出版協会　2008年

内藤正人　『江戸名所図屏風　大江戸劇場の幕が開く』　小学館　2003年

古板江戸図集成刊行会編　『古板江戸図集成』　中央公論美術出版　2000年